

団体名：苫小牧腎友会

回答日：平成30年12月28日

要望書（回答）

- 1 苫小牧市では、重度障害者タクシー料金助成制度、福祉ハイヤー助成制度、市内路線バス無料乗車証交付制度があります。これに加え、4年前から自家用車による通院補助として、年額9,000円の支給を受けられるという選択肢が増えました。透析患者の自家用車に対する通院補助は、通院の多様性に対応しているものであり、心より感謝申し上げます。通院補助が始まってから4年が経過しましたので、いま一度、補助のあり方について見直しを検討して頂きますようお願い致します。具体的には、自家用車の燃費を15km/L、ガソリン価格を150円/Lと仮定すると、現在の支給額を通院距離に換算すれば、片道2.9kmとなります。この通院距離の想定が妥当なものであるかという点に加え、重度障害者タクシー料金助成制度や市内路線バス無料乗車証交付制度と比べた自家用車の通院補助額の適正化について再度検討頂きますよう、お願い申し上げます。

【回答】（福祉部障がい福祉課 担当）

重度心身障害者通院交通費助成制度は、自家用車による通院をしている方を対象として、従来のバス、ハイヤー、タクシーといった公共交通に関する助成制度の利用が難しい場合や、実情に合わない場合にも御利用いただけるようにと、受給者の選択肢を増やす目的で平成27年度から開始した制度です。

本制度と他の公共交通に係る助成制度との補助額についてですが、制度毎に対象要件が異なるため、どの制度の利用が有利に働くかは受給者のライフスタイルにより変化すると捉えていることから、金額による比較は難しいものと考えております。

本制度につきましては、年々着実に受給者数が伸長しておりますことから、今しばらくは現行の内容のまま実施していきたいと考えております。

- 2 苫小牧腎友会では、Facebookのページを立ち上げ、実施したイベントについての情報を発信しております。当腎友会の活動をますます活発にするために、より多くの透析患者の皆さんや健常者の皆さんに我々腎友会の活動を知って頂くことが重要です。引き続き、苫小牧市の広報関係資料において、苫小牧腎友会のFacebookページを紹介して頂きますようご検討のほどお願い致します。

【回答】（福祉部障がい福祉課 担当）

本市の広報関係資料における貴会Facebookページの紹介についてですが、平成30年3月に発行しました障がい者地域生活支援ハンドブック「逢」において、貴会の概要とFacebookページの紹介について掲載させていただき、データ版を本市のホームページ上で配信しております。他の発刊物につきましても、更新時の状況を見据えながら、検討してまいりたいと考えております。

3 臓器移植は透析患者が透析を逃れる唯一の手段です。北海道では549人の腎臓の移植希望者がいながら、今年に入ってから、これまでの移植の実績はゼロ件と、今年は例年に比べて進んでいません。移植医療は前進するどころか、むしろ後退しているようにさえ思えます。できるだけ多くの方に、臓器移植の現状を知って頂くには、人の多い場所で情報を提供することが重要です。市役所庁舎は市民の出入りが多い場所ですので、売店前のテレビが設置されている箇所で、定期的に臓器移植を推進する映像資料を再生し、臓器移植についての情報を提供することについて、ご検討頂けますようお願い致します

【回答】（健康こども部健康支援課 担当）

臓器移植の普及につきましては、全戸配付をしている我が家の健康カレンダーに、臓器移植に関するお知らせを掲載しているほか、本年10月の「臓器移植普及推進月間」には、市役所庁内放送で、来庁者向けのメッセージを放送いたしました。

今後は、市役所庁舎1階住民課前モニターでの静止画広告を活用した周知を検討してまいります。

4 災害時の要支援者の確認と名簿作成の活動をして頂いていることについて感謝申し上げます。要支援者を把握することは、災害対策の第一歩として、たいへん意義があることで、今後もこの活動を継続して頂けるよう、お願い申し上げます。

このことに関して、苫小牧腎友会がお役に立つことがあればどのようなことでも協力は惜しまないつもりですので、宜しくお願い致します。さらに、名簿等が整った次の段階として、実際に災害が起きた際の要支援者への駆けつけ行動は、町内会の単位で行うのが現実的と考えられますので、居住地区や集合住宅の部屋単位での要援護者支援、避難誘導の役割分担について、具体的な訓練を継続して頂けますようお願い申し上げます。

9月に発生した胆振東部地震では、避難の最中に転倒する等して怪我をした方はいるものの、幸いにも、透析が出来ずに亡くなった方はいなかったと聞いております。私達の透析には、透析設備とスタッフ、透析機械を動かす電力を得るための予備の発電機に加え、大量の水が必要です。透析を行うには、これらの確保が必須です。さらに、透析施設が使用不能の状態を想定した対策として、苫小牧市と北海道透析医会と市域内だけでなく、市域を超えて施設側との事前協議や患者の受け入れ医療機関との打ち合わせも必要と思われます。我々、透析患者は透析を継続できる環境を切に願っておりますので、このことについて検討頂けますようお願い致します。

【回答】（市民生活部危機管理室 担当）

避難行動要支援者支援制度につきましては、現在町内会のご理解のもと市から名簿を提供し、地域での支援体制の整備に向けて取り組みを進めているところです。また、要配慮者支援の訓練につきましても、平成28年にもえぎ町町内会を中心とした津波避難及び避難所開設訓練、平成29年には市の総合防災訓練を通じて警察及び消防団と連携し、要配慮者の救出・救助訓練を実施しており、今後も町内会と相談しながら、

名簿の活用等を想定した訓練が実施されるよう働きかけてまいります。

災害発生時における水や電気の確保につきましては、透析される皆様の生命を守る観点からも大変重要な課題であると認識しておりますことから、本年6月と9月に災害時の透析医療ネットワーク構築を目的に、市内の透析医療機関6施設の医師・看護師等及び市の健康支援課、危機管理室で構成される透析連携ミーティングを開催したところでございます。災害時においても透析を必要とされる皆様が、継続して治療を受けられるよう今後もこうした取り組みを続けてまいります。

- 5 現在まで治療法がなかった難病を自分の細胞を使って必要な臓器を再生する道を開いたiPS細胞に代表される再生医療は、目の網膜、筋萎縮性側索硬化症（ALS）、パーキンソン、アルツハイマー、脳梗塞、脊髄損傷などの難病の治療への扉を開こうとしています。5年前から全腎協、道腎協、苫小牧腎友会においてiPS細胞による再生医療への協力と推進を活動計画に入れ、希望を持って活動しております。全国に先駆け、全道の患者、家族、施設、協力団体の皆さんで、iPS細胞による再生医療への支援として、募金と研究者への励ましの手紙など患者それぞれの思いをお届けする活動を行っております。研究の進捗をただ傍観しているのではなく、少しでも研究の後押しをしたいとの思いからです。そして、これらの医療の進歩が私達患者に生きる勇気を与えてくれますし、また、市民の皆さまにも関心を持ってもらうことで、病気を抱える患者の理解にもつながればと願っております。また、苫小牧に住む患者、市民の皆さまがお互いを理解しあい、共生、共存の出来る街、福祉の街づくりに役立つことを心から願っております。市民の皆さまが再生医療に関する情報に接する場を設けて頂けるような配慮をお願い致します。

【回答】（健康こども部健康支援課 担当）

京都大学iPS細胞研究所では、再生医療用iPS細胞ストック構築として、2020年までに日本人の大半をカバーするストックを目指しており、骨髄バンクドナー新規登録者への協力依頼を求めているところです。

市としましては、骨髄バンクドナー登録を周知することが、iPS細胞による再生医療の推進につながるものと考え、骨髄バンクの支援を行っております。

今後も、市民の皆さまが再生医療に関心を持つことができるような取組を検討してまいります。